

実践 11

総合的な学習の時間

単元名：産業教育実践講座を通して職業について学ぼう

(第2学年)

○ 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な時間のよさを理解するようにする。	(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。	(3) 探究的な時間に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。



○ 単元の目標

産業体験プログラムを通して、身の回りのものが産業と深く関連している事を理解し、目的や対象に応じて産業体験プログラムを体験し、職業と働くことの意義を考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。



○ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①【概念的な知識の獲得】産業は、農業、工業、商業等の各分野に分かれていること、身の回りのものが産業と深く関連していることを理解している。 ②【技能の獲得】産業体験プログラム活動を通して、目的や対象に応じた体験活動を実施している。 ③【探究的な学習のよさの理解】産業体験プログラムにおいて、働くことの意義を考え、将来の職業選択や探究的に学んだことによる成果であると気付いている。	①【課題の設定】産業との関わりを通して課題をつくり、解決の見通しをもっている。 ②【情報の収集】課題の解決に必要な情報を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。 ③【整理・分析】課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えている。 ④【まとめ・表現】聞き手や目的に応じて、分かりやすく表現している。	①【自己理解・他者理解】課題解決に向け、見通しをもち、自分の良さに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ②【主体性・協働性】職業と自分との関わりに関心をもち、自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 ③【将来の展望・社会参画】職業と自分との関わりに関心をもち、今後の学習、生活の在り方や自分にできることを見付けようとしている。

◎ キャリア教育の視点を踏まえた授業改善

本単元においては、農業・工業・商業を連携させた産業体験プログラムを通して職業理解につなげ、中学生のキャリア教育の充実を踏まえた授業改善を目指した。

テーマ①「酸乳飲料の商品開発」とテーマ②「植物工場野菜の商品化プロジェクト」に分かれて疑似職業体験学習し、働くことや生き方、社会に関心を持つことができるよう工夫した。

○ 総合的な学習の時間への位置づけ

中学校学習指導要領（平成29年3月）では、生徒に将来、社会や職業で必要となる資質・能力を育むためには、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる資質・能力を育む、キャリア発達を促すキャリア教育の視点も必要であると述べられている。

産業教育班は、産業教育共同利用施設（＝高校テクノセンター）としての役割はもちろん、農工商の産業分野が一つの場所に集結しており、連携した職業教育が実践できる。このことにより、従来の産業分類を超えた複合的な産業で求められる職業人としての知識、技術に対応した実践的教育が可能となる。

総合的な学習の時間におけるキャリア教育の視点に立った講座として、農業・工業・商業を連携させた体験的プログラムを構築し、本プログラムを通して職業理解につなげ、働くことや生き方、社会に関心を持つことができるよう産業教育を活かした中学生のキャリア教育の充実を目指す。

○ 産業教育実践講座とは

この講座は、2つのテーマに分かれ職業に見立てたチームで活動を行い、それぞれのミッションを達成させるという内容である。テーマ①「酸乳飲料の商品開発」と テーマ②「植物工場野菜の商品化プロジェクト」について体験学習する。詳しい内容は、図1に示す。

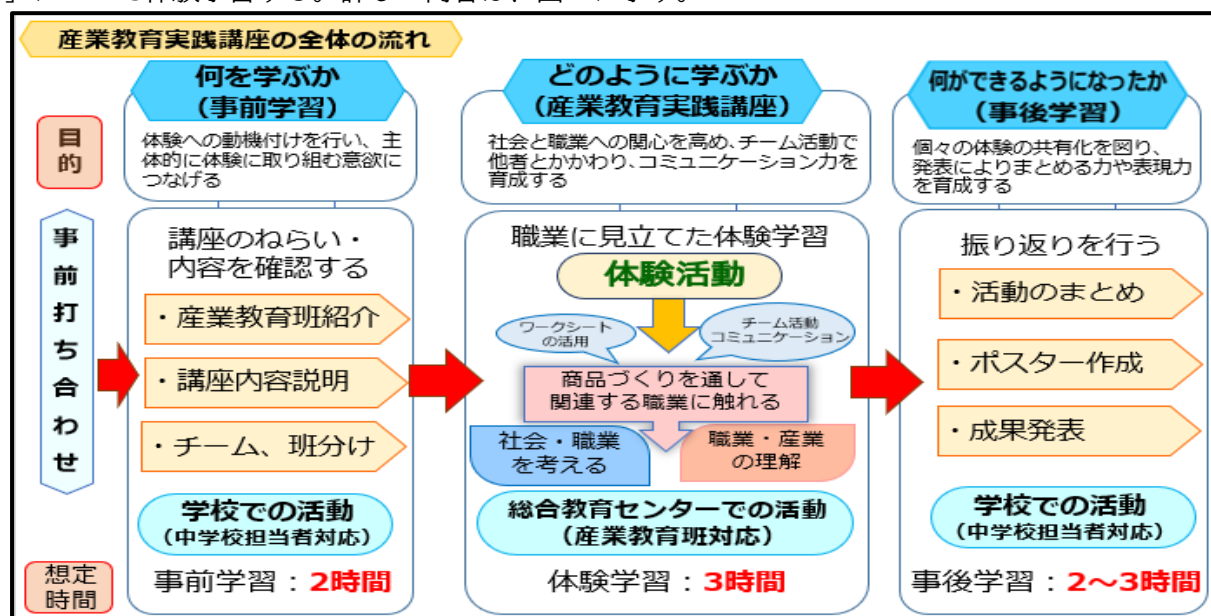


図1 産業教育実践講座(全体)の流れ

○ 産業教育実践講座(体験活動)の実践報告

課題設定(2時間) | 中学校にて(事前学習)

「地域に目を向け体験で未来探し!」「産業技術教育センターでの体験学習を通して生活の中の仕事や未来の自分を探してみよう!」のめあてでスタートし、体験への動機付けを行い、主体的に体験に取り組む意欲に繋げるため、産業技術教育センターの概要説明、実践講座での学習概要の説明を行う。その後、各テーマに班分けを行う。



産業体験学習(3時間) | 当センターにて(体験)

オリエンテーション(全員)

産業体験学習の概要説明

- ・班活動を行い、一つの製品をつくり上げる。

ねらい

- ・産業の繋がりや職業に対する理解を促す。
- ・産業体験学習を通して、興味・関心等を高め「勤労観」や「職業観」の形成を目指す。



テーマ① 酸乳飲料の商品開発 ミッション【オリジナル酸乳飲料をつくる】			テーマ② 植物工場野菜の商品化プロジェクト ミッション【売れる野菜にするためには】		
チーム全員でオリジナル酸乳を考える。添加する果汁やフレーバーを話し合い決定する。その商品から導かれるイメージワードやフレーズを使って商品名やPRポイントを考え出す。			植物工場の見学・説明を通して、野菜の栽培や環境制御の仕組みを理解する。また、植物工場で栽培されている野菜の特徴、安全性や制御について学習し共通の知識として理解する。		
製造班	ラベル作成班	商品ポスター班	栽培班	商品タグ作製班	PR チラシ作成班
添加する果汁とフレーバーを加え、酸乳飲料を製造。	商品イメージから買いたくなるようなラベルを作成。	商品イメージから買いたくなるようなポスターを作成。	リーフレタスの播種（種まき）から収穫までの栽培の一連の流れを体験。	植物工場野菜に付加価値をつけるための金属製の商品タグを作製。	制御に関する学習のあと、この野菜がなぜ安全でおいしいのかPRするチラシを作成。
 	 	 	 	 	 
製造した酸乳飲料にラベルを貼り、ポスターを添えて1つの商品にする。活動を振り返り、班での作業内容をチーム全体に発表し、情報共有する。			収穫した野菜にチラシやタグを付け1つの商品にする。活動を振り返りまとめ、班での作業内容をチーム全体に発表し、情報共有する。		
 			  		
産業体験学習のまとめ（全員）					
「何ができたか」「何がわかったか」「一つの商品を仕上げるために」等の質問をすることで、産業体験学習を振り返った。産業体験学習のまとめとして、製品が手元に届くまでに多くの職業や働く人が関わり、「誰かの仕事」が自分の生活につながっていることや「未来の自分は世界をつくる誰かの一人である」ことを確認し、講座のまとめとする。			 		

リフレクション（2～3時間）中学校にて（事後学習）

事後学習では、テーマ毎の班に分かれ体験学習での情報を整理し、グループ内で共有する。ワークシートや撮影した画像を確認しながら振り返りを行う。発表は、各班紹介したい場面の写真やその説明文、体験学習の感想等を盛り込み、プレゼンテーションソフトを使用して発表する。発表する生徒、発表を聞く生徒どちらも集中して発表会が行われ、発表後に産業教育実践講座を終えての事後アンケートを実施する。



○ アンケートより

事後アンケート（生徒）

実践講座終了後に北中城中2年生 119 名に対して実施した。「今回の『産業教育実践講座』は、どうでしたか」の問いに対して「良かった」「やや良かった」と回答した生徒は 113 名(95%)いた。「今回の班の活動で大切だと感じたことは（複数回答可）」に対しては、回答の多い順に「協力する力 84 名」「他者とかかわる力 58 名」「計画を実行する力 54 名」「自己の役割を理解する力 47 名」と続いている（表1）。「産業教育実践講座の感想」では、「貴重な体験ができたし楽しかったです」「グループのみんなでラベルを作るのが楽しかったし、いい体験ができた」や「たくさんの人々が協力して社会が成り立っていることが分かった」「一つの物をつくるのにいろんな人の作業が携わって凄いことだと感じた」ととてもいい体験で楽しい1日でした。また、将来の見通しを持つことができたので良かったですなどの感想があった。「産業教育実践講座は、あなたの進路選択に役立つと思いますか」の問いに対しては、「とても思う」「思う」を合わせて 94 名(79%)の生徒が回答した。「自分の生活は、いろいろな職業・仕事とつながっていることがわかりましたか」の問いに「よくわかった」「わかった」を合わせて 114 名(95%)の生徒が回答した。「今あなたが勉強していることは、将来役立つと思いますか」では、「きっと役立つ」「どちらかといえば役立つと思う」を合わせて 98 名(82%)回答している。

事後アンケート（職員）

実践講座終了後に北中城中職員 7 名にアンケートを実施した。「『産業教育実践講座』は、生徒にとってためになるものでしたか」の問いに対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した職員は 6 名(86%)で「どのような点でためになったと思いますか（複数回答可）」に対しては、回答の多い順に「職業への興味・関心 6 名」「今後の学ぶ意欲の向上 5 名」「将来の夢・希望の広がり 5 名」と続いている。「『産業教育実践講座』についての感想」では、「身のまわりの商品が、多くの人々の力で作られていく過程を知ることができたので、子どもたちにとって貴重な体験となりました。」や「3 学年の最初の時期に行うとよりキャリア教育の充実にもなると思います。」などの感想があった。

表1 事後アンケート

今回の班の活動で大切だと感じたことは何ですか(複数回答可)

項目	人数(人)
協力する力	84
他者とかかわる力	58
計画を実行する力	54
自己の役割を理解する力	47
発想(想像)する力	45
考えや気持ちを伝える	44
最後までねばり強くやり通す力	33
社会の一員として社会を積極的に形成する力	33
問題を発見できる力	29
行動を振り返り、改善につなげる力	28
自分の目標を設定する力	27
将来を想像する力	25
人や地域を大切に思う気持ちや感謝する心	23
情報・アドバイスを正しく理解し、自分を見つめる力	23
立てた目標を確認し次につなげる力	21
課題に対応した計画を立てる力	20
自分の良いところを見つめる力	17
間違いや他人との違いをおそれない	16
目標設定のために計画を立てる力	16
自分の意志で判断してキャリアを形成していく力	16

◎ 実践の効果

アンケート（生徒、職員）より生徒は、各チーム活動を通してミッション解決のために「他者とかかわる力」「協力する力」「計画を実行する力」と記述しており、必要な力に気づくことができた。産業教育実践講座を通して、1つの商品をつくるのに多くの人の作業が携わっていることを知り、職業への興味・関心を持つなどキャリア教育へと繋げることができた。また、将来の進路（自分の才能を生かす仕事）に向けて、今後の学ぶ意欲の向上に繋げることができた。